

北海道浮魚ニュース

令和元（2020）年度 13 号

2020 年 8 月 25 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎太平洋いか類漁場一斉調査結果

8 月 17 日～21 日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの平均分布密度は昨年を下回り、過去 5 年平均を下回った。
- ・サイズは昨年同様に小さく、平均値は過去 5 年平均より 2cm ほど小さい。

1. 水温分布（図 1）

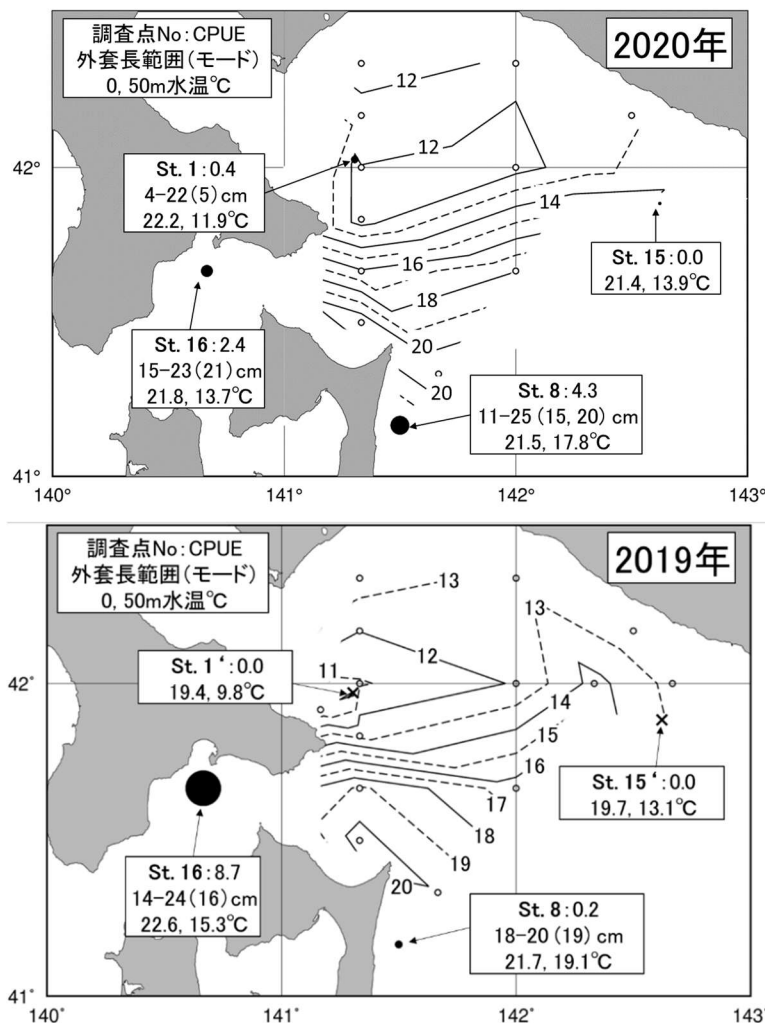


図 1 スルメイカ漁獲調査結果。●は漁獲調査点で大きさは CPUE に比例（1 以下は同じ大きさ）。○は海洋観測点。等温線は深度 50 m の水温（°C）。

漁獲調査点 4 点の表面水温は 21.4～22.2°C（昨 19.4～22.6°C）、深度 50 m 層の水温は 11.9～17.8°C（昨年 9.8～19.1°C）でした。

深度 50m 層の水温分布は下北半島周辺で高く、南茅部沖から日高湾に 12°C 以下の低い部分が見られました。

また、昨年と同様に津軽海峡東口から日高沖に向かってほぼ東西方向に 14～18°C の等温線が分布しており、津軽暖流水が日高湾に広く張り出している状況でした。

2. 流向流速分布 (図2)

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50 m 層における流向流速と水温分布(図1)を照らし合わせると、津軽海峡からほぼ東西に分布する等温線に沿って東へ向かう強い流れがあり、下北半島沖合では強い北上流が見られ、津軽海峡東口で東向きに流れが変わることから、津軽暖流が日高沖まで大きく張り出して時計回りの渦を形成する渦モードになっていると考えられました。

道総研では北海道周辺海域で、2ヶ月ごとに3隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou/>

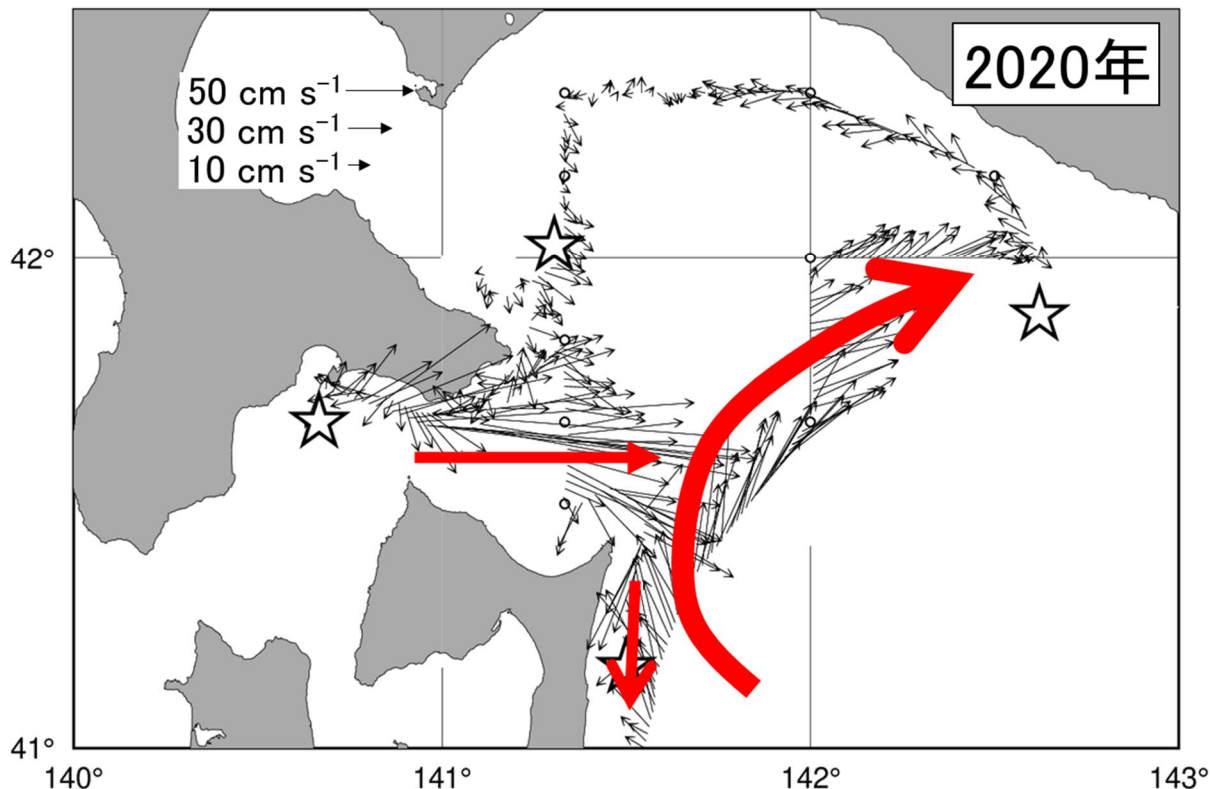


図2 2020年の深度50m層における流向流速(黒矢印)と津軽暖流の模式図(赤太線)、☆は漁獲調査点

3. スルメイカの分布密度 (図1、表1)

漁獲調査点4点のCPUE(2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)は0.0~4.3(昨年4点:0.0~8.7)の範囲で、最もCPUEが高かったのは下北半島沖のSt.8でした。漁獲調査を行った4点の平均CPUEは1.8で昨年の平均(2.2)を下回り、過去5年の全4点の平均(4.2)を下回りました。

表1 太平洋いか類漁場一斉調査(道南太平洋8月)のCPUEと外套長の経年変化過去5年は2015~2019年の平均値または範囲

	2015(H27) 8/19-8/21	2016(H28) 8/24-8/26	2017(H29) 8/21-8/25	2018(H30) 8/20-8/24	2019(R1) 8/18-8/22	2020(R2) 8/17-8/21	過去5年
St.1(木直沖)CPUE	2.5	6.8	2.7	2.1	0.0	0.4	2.8
St.8(下北半島東沖)CPUE	15.7	-	1.9	1.9	0.2	4.3	4.9
St.15(浦河沖)CPUE	-	6.8	0.3	0.3	0.0	0.0	1.8
St.16(函館沖)CPUE	-	-	9.5	3.1	8.7	2.4	7.1
平均CPUE(尾/(台・時))	9.1	6.8	3.6	1.9	2.2	1.8	4.2
外套長の範囲(cm)	13-25	13-25	13-25	14-23	14-24	11-25	13-25
外套長モードの範囲(cm)	21	18, 21	15-20	19-21	16, 19	15, 20	15-21

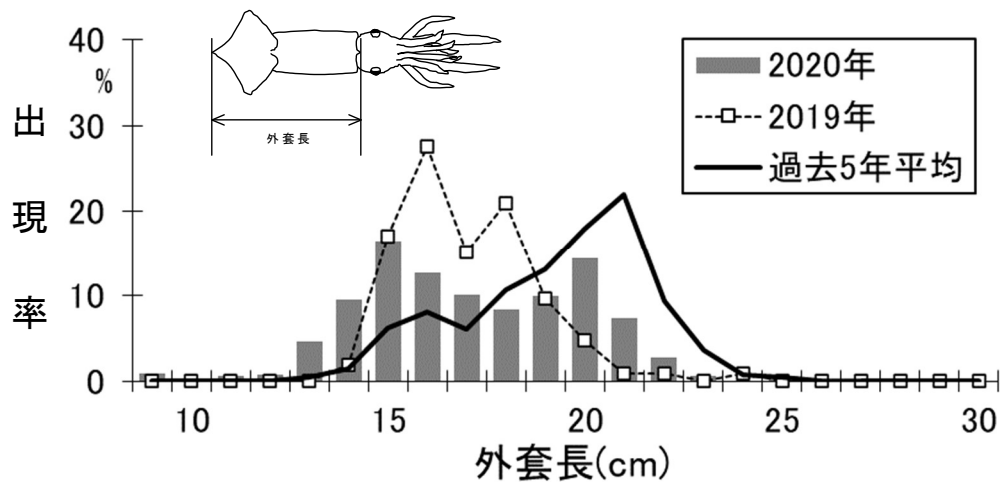


図 3 調査海域全体のスルメイカの外套長組成

4. スルメイカの大きさ (図 1、図 3)

スルメイカの外套長は 11～25 cm (昨年 14～24 cm) の範囲にありました (図 1、図 3、表 1)。多く出現したイカの大きさ (モード) は 15 cm(16.4%)と 20cm(14.4%)で拮抗しており、2 峰型を呈しています。平均値は 17.0cm と昨年(17.0cm)と同様に小さく、過去 5 年平均 (19.3 cm) を 2 cm 程度下回りました。

5. 標識放流 (図 4)

調査期間中、函館沖の調査点 St.8 で 63 尾の標識放流を行いました。放流したイカにはヒレの付け根部分に黄色の標識タグが打たれています。標識のついたスルメイカを発見した方は、最寄りの水産試験場までご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

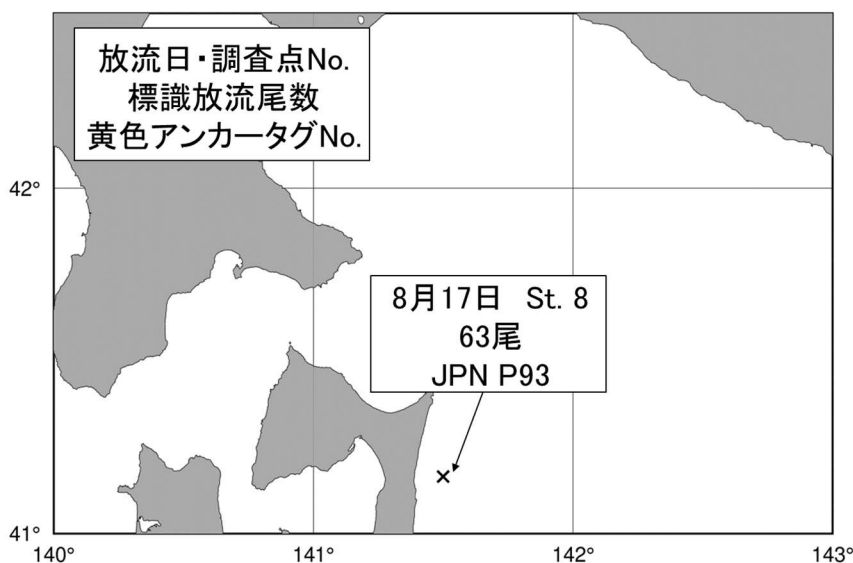


図 4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識番号